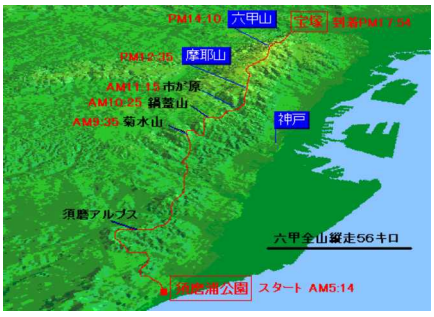
BEN STYLE

「六甲山全縦走？、こんな楽しみ方もありましたよ。」

この間の日曜日です。ぽっかり予定が空いちゃって、さてお山でも行こうかなと思って。「ひとりじゃさびしいな。」と、師匠にお電話。「明日は、お山へ行くんですか？」「あー行くで、雨が降ったらドライブになるけどな。・・・・ほな、さいなら。」え～、「あんたも行くか？」って、ゆうてくれてもええやん。やっぱり普段の付き合いが物を言う世界がお山の世界にも在ったんか。「そんな事ゆうてもな、こっちは休みは日曜祝日だけ、小６の息子と、愛する奥さんがおるんや、そんなにイケズせんでもええやん。」それとも、師匠、彼女と山でも行くんやろか？。それやったらわかる。次は自転車のお友達にもふられて、それでは、単独行でも、行っちゃるやん。日曜日は、朝10時の山電（一人なので気合抜け）に乗る、**直通特急梅田行！**。乗ってからちょっとびびる。「もしかして梅田まで下ろしてくれへんの？」必死で、社内表示を見回すも、回答なし。10分で飾磨駅に停車し、ひと安心。停まるんや。よく周りを見回したら、乗ってる客がこのまま梅田の阪神百貨店へ行くとは思えん服装の人がいっぱいおったわ。感悪う～。60分で板宿駅に到着、初めて降りるけど、地下駅です。立派立派。地上へ上がると下町雰囲気は本物です。大好きな板宿の街ですが、先を急ごう。バスに乗り目指すは、高取山登り口。さて、どこで降りようかな、聞けばいいのに、「前に来たから分かるやろ。」それがいけない。２つも乗り越す。人間の記憶ってあてにならんな～。ここでも感悪う～でありました。しかも戻る道は、果敢な上り坂。ここからも登れそうと、ショートカットよろしく住宅街を山のほうへ侵入し、あれ～、行き止まり～。また、感悪う～。出戻りして（うちの娘は似てほしくない）、またもとの道を進むこと５分。やっとありました、非常に小さな登り口の看板。リーダーやってて間違うと、皆さんに針でつつかれる為、「なんで、こんなに看板小さいんや、それも反対方向から見えへんやん。」ってな具合にプンプンやろけどな。今日はぜんぜん腹が立ちません。ひとりってこんなもん。実は今日は六甲全山縦走の続きをもくろんでおります。この前は須磨の鉢伏山からスタートして高取山で終わったので、続きをしてやろうと挑戦しています。さて、六甲全山縦走とは、神戸の背後の六甲連山。西は須磨から東は宝塚まで約５６キロ。尾根をたどりながら、１日のうちに、自分の力で、個人の責任で歩き通すのが六甲全山縦走です。そう一日ですよ。みなさん、たじたじになって、夜の９時ごろライトを片手に宝塚の町に下ってくるそうです。

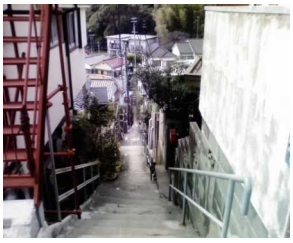


たじたじへろへろ。私は山登りをたしなんでいますが、これには、あまり興味がありません、なんかせかせかと、短距離走のように走っていく人がいるからです。５６キロというのは一日で山を歩く距離ではありません。これはトライアスロンのようで嫌いなんです。でも、楽しみ方もあるんですよ、それは後ほど後ほど。ほどなく高取山へ登り始める、ほぼ頂上まで登り、分岐路へ、右は丸山、「ふむふむ、こっちこっち。」と早合点。10分下って間違いに気がつく、ま～いいかひとりやから、気をとり直して戻る。正しい道を歩きはじめてしばらく、「あ～地図を落とした。」「まーいいかひとりやから。」また、今来た道を下っていく。「もったいな～」「地図くらいえ～やん。」と、思うでしょう。「違うんだな～六甲全山縦走は地図が非常に大事なんですう～。」とか、ぶつぶつ言いながら戻る。全部で片道10分の道程を３回往復したんですよ３回！。あと、１回は何であったか忘れたが多分こういう理由だったと思う。「六甲全山縦走は一歩抜けても完成しないのである。だから、この間、途中まで来た道の到達点を必ず通らなくてはならない掟があるのです。私には！これはこだわりです。」とかなんとか言って、

第４６号
BenHouse
編集　尾上大輔
姫路市南条637
TEL:079-222-5500
www.benhouse.co.jp
ﾊﾞｯｸNO.は上記WEBで

前に通ったトイレのところをタッチしてから（お前はわんこか？）、鵯越方面へ下る。20分で麓の住宅街へ到着、ここからは住宅街の中を進みます。地図を見ながら、慎重に、例年山で迷わず住宅街で迷う人がほとんどなんです。丸いカーブミラーの所を左折、四角いカーブミラーを右折と、くねくねと進んでいきます。

そんななか、「めっけ～昔こんなゴミ箱があった、あったんですまぼろしの石のゴミ箱、このゴミ箱からミノでゴミをすくっていってトラックにゴミを投げ入れてたんですから。知ってます？」ここでも六甲全山縦走の掟にしたがってタッチですよ、道ははずせません。「長い階段を正面に見ながら橋を渡る。」なんて、暗号のような地図を頼りに、神鉄鵯越駅到着です。ここものんびりした駅で、駅の前に食料品店さん（自称スーパー）で、バナナを買いそうになるもやめとく。こんな駅前にも居酒屋さんがちらほら、でもまだ準備中！2時やもんね。道探しは、ここからが最高に難しかった。



「正面は行き止まり？左にひとりが通れる谷への階段道。正解は左でした、ここでも行ったり来たりの5分間。こんな道でいいんか？と、進みます。ほどなく正解と分かりました。これがなんともいえぬオリエンテーリングの楽しみですね。「お山登りとオリエンテーリング」こんなおもろい組み合わせをわき目も振らずタイムを競って駆け抜けるなんて、なんてお馬鹿ちゃんなんでしょう。そこからは、今にも途切れそうな道を谷川沿いに烏原貯水池へと、ここからがいいんですよね、神戸の上高地とでも言いましょうか。

気持ちの良い川沿いの道を菊水山へ、農薬だらけのゴルフ場を右に見る頃、また桃源郷が、梅の花がきれいな広場。なんと、山の中腹に、なぜだか門柱と表札が、ここには仙人さんが住んでいるのでしょうか。

ここで遅めの昼食かと思ったが、菊水山は直登で、大変きついとの情報にがまんがまん、4時には下山開始しないと日が暮れるかも、急がなくてはと疲れた体に鞭をうち。3時30分に頂上へ。ビールでひとり乾杯、あ～最高！。菊水山は展望が非常によく、西は明石大橋、淡路島、加古川辺りまで。東は大阪、関空、和歌山までも丸見えである、最高最高！。「え～もう終わり？」「当たり前やん、ここからの道はまた険し、なんと頂上から天王谷まで300m一気に下って、再度、鍋蓋山まで400m一気に登る一番厳しいところである、ここを元気に越えられたら、もう六甲全山縦走も成功したようなものである。成功は私が保証いたしましょう。とかなんとか言いながら、軟弱大ちゃんは鈴蘭台へひと下り、鈴蘭台の町探検、ふーんコープとダイエーしかない、「ちょっと、兄いさん、ええ～女つれすぎやで。」のアベックがパチンコ屋へ。鈴蘭台の町はそんな町。国道がだいぶ上を通ってまして谷底にあるような町です。新開地の子分やな。駅前のダイエーでヨーグルトを買っていざ新開地へ、着いてから乗越精算機へ（料金が分かりにくいときはいつもこの方法、よ～は、邪魔くさがり）。「550円なんでこんなに高いの神戸電鉄？」「は～それは神鉄、高速神戸、山電の乗り継ぎで高こおます。」とは、精算機は言わんけどな。「は～そうでっか、よう分かりました。」山登りの後は、必ず麓の町で一杯飲んで帰ります。「ま～今日の締めくくりやな。」前から行きたかったお店。なんと、弁当と寿司とコロッケと居酒屋。なんとオールマイティな看板やろ。これに惑わされない客はいないのではないだろうか。さて、なかへ入ると、おったおった、おっちゃん2人と昔のお姉さん一人。「今日の○○は大外からまくるで、②-③で硬いとこいっとこか。」だって、ここは場外舟券場が近いからな。こんなお話を聞くのが好きである。ぼっかけコロッケは食べ損ねたが、今日もいい日であった。満足っ、満足っ。最後にお勧めコースは鉢伏山から菊水山です。なんたって町中オリエンテーリングが3回も出来ますから。そのため六甲全山縦走地図は必ず買うべし。神戸市役所に売ってます。楽しいよ。では、皆様の迷走町歩きの成功を祈ります。